

集落協定 かわら版 (第29号)

(平成22年2月19日 山口県農業経営課)



周防大島町土居東集落協定
面積/畑 急傾斜 0.4ha
緩傾斜 2.4ha
参加者 4人
交付金 13.2万円

「山口県中山間地域等直接支払検討会」(県の第三者委員会)の委員である山口県消費者団体連絡協議会事務局長の山岡智恵子さんが、周防大島町土居東協定集落取材しました。

少人数でもがんばる 協定集落を訪ねました。

・・・周防大島町土居東(どいひがし)
協定集落・・・

今回は、周防大島町土居東協定集落の中原惣治さん(77歳)に話を聞きました。

協定集落の状況は。

土居集落全体では、約80戸有りますが、傾斜のあるミカン畑は、2カ所に分かれています。そのため、協定集落も2つ有ります。私たち土居東協定の

協定農用地の面積は、2.8haです。協定参加者は、4人で何とかやっています。この協定は、第1期対策の2年目(平成13年)から取り組みました。第2期対策へは、高齢化のため何人が離脱しましたが、残った人数で継続することにしました。もう一つの協定は、土居西協定で、協定面積は5.7haで参加者は15人です。

協定参加者の年齢構成は。

4人全員が、70歳代後半です。

周防大島町内のミカン栽培者のほとんどが70歳代だと思います。この年代が若い頃は、集落の半分以上の農家が専業でミカンを栽培していました。今では、ミカン専業の後継者はほとんどいなくなり、兼業でやるか、そのまま年をとった者が、何とかがんばっている状況です。

交付金の使途は。

交付金の半額を共同取組活動に使って

います。交付金額が少ないので、ほとんどを農道の補修や草刈り、農道にせりだした木の枝の剪定など、農道管理に使っています。集落内の非農家で土木工事の経験がある人に、農道補修をお願いしています。

その他は、ミカンを食べるタヌキの進入を防ぐための電気柵の設置に使っています。みかん園全体はカバーできませんが、特に被害がひどいところに設置しています。これは、非常に効果があります。



(中原さんと山岡委員)

どんなミカンを栽培していますか。

今の時期は、温州ミカンの「大津」という品種を収穫しています。その他、極早生の「ひなのひめ」や晩柑類の「せとみ」等を栽培しています。「せとみ」は、「ゆめほっぺ」という商品名で販売されています。

体制整備単価の要件である「高付加価値型農業」を実践することとし、ミカンのマルチ栽培を行っています。樹の根元に雨水を通さないマルチを敷いて、水の吸収を抑え、糖度を高める栽培です。今収穫している「大津」では、8月頃にマルチを敷きます。これにより糖度が12度以上になりますから、非

常に甘くなります。

ミカン栽培の大変なところは。

段々畑に、樹が植えてあるところは、よいのですが、山の斜面にミカンが植えてあるところは、全ての作業が大変です。中でも防除作業が、一番大変です。ミカン栽培が全盛期だった私達の若い頃には、集落内にポンプ小屋を設置し、そこからほとんどの樹園地まで配管していました。配管の先端のバルブに、ノズルのついたホースを取り付けるだけで簡単に防除ができようにしていました。しかし、生産者数の減少に伴い、施設が老朽化し、使用できなくなった後は、以前のように、各人が軽トラにタンクとポンプを積んで防除しています。

援農サポーターを活用されているということですが。

はい、5年ぐらい前から、援農サポーターを頼んでいます。今日も、ミカンの収穫作業に2人来てもらっています。ひとりは周南市から、もうひとりは岩国市周東町からです。2人とも3～4年のベテランで非常に助かっています。

交通費2,000円とミカン10kgを負担します。



(ミカンの収穫を体験、右はサポーター)

今後、集落の農地保全はどうしますか。

現行の4人で、できるだけがんばっていきたい。他の仕事に就いている同居の後継者はいるので、ミカン栽培は、続けられると思います。更に協定も継続できたらなと考えています。



(マルチ栽培と傾斜地にあるミカン園)

援農サポーター制度

周防大島町でミカン栽培作業等を支援するボランティアの紹介・斡旋を行う制度

窓口

周防大島担い手支援センター

作業内容

- ・ミカンの収穫、摘果、マルチ張り等
- ・梅の収穫
- ・タマネギ苗の植付

必要経費（農家負担）

- ・交通費 2,000 円
- ・弁当または 500 円
- ・ミカン 10kg または 2,000 円
- ・ボランティア保険掛金

登録者数（平成 21 年）

- ・農家 39 人
- ・サポーター 164 人（ほとんどが町外者）

~~~~ 編集後記 ~~~~

手入れの行き届いたみかん園をみると、大変だけれどもミカン作りはやめられない気持ちが伝わってきました。

県農業経営課 徳永

電話 083-933-3350

~~ 取材を終えて ~~

山岡 智恵子

11月30日、山口市を10:30分頃出発した頃は暗く曇って、今にも雨がポツポツしそうな天気でしたが、玖珂インターを過ぎる頃から明るくなり、進んでいくうち青空が見え、太陽も見え隠れするようになり、さすが山陽だなと感じました。

周防大島町の橋本主幹さんの案内で、中原さんの畑にお邪魔しました。

土居東協定は4人で構成されていて、協定農用地は、ミカン園ということでした。

1期目に1年遅れで参加し、1期から2期に移る時に人数が減って4人になったそうです。

4人とも70歳代後半で、農道の管理をしたり、狸の被害に遭わないよう、電柵で進入を防いでいるということでした。狸はみかんの皮を上手にむいて食べるとか。朝、行くと皮がいっぱい落ちているのを見るとホントにガッカリするそうです。そうですよね・・・収穫しようと思っていくと皮の山なんて。

私達が訪ねた園のミカンは15年くらいの樹で、元気一杯。実が鈴なりにつきました。マルチシートというのが敷かれていて、そのシートを敷けば、糖度12度以上になるそうです。取材の日は二人のサポーターさんが周東と徳山から来られていました。サポーター制度を5～6年前から活用し、サポーターの調整は役場がしてくれるので、安心だということでした。

今年のみかんの表作ということで、ミカンを全て大きくしてしまうと、来年実らなくなってしまうということです。そうならないために、9月ごろ実を全部落とす樹もあるそうです。なかなか大変！

来年も、沢山実がなると良いですね。

段々畑を想像していたのですが、協定集落のみかん園は、段々畑だけでなく、想像以上の急斜面にミカンが植えてあるところもありました。車は入らず、脚立も思うように立てられないだろうと思います。収穫には、袋を肩からかけてその中に入れていくのですが、一杯になれば平らなところに置いてあるカゴに移すため移動しなくてはなりません。足もしっかり踏みしめてないと滑るかもしれません。平坦地に比べると倍も3倍も、いえそれ以上のご苦労があるだろうと思いました。ビタミンCが豊富なみかんを私たちが食べられるのもこのような方々がおられるからです。これからも元気でみかん作りに頑張ってください。

もぎたてミカンはとても美味しかったです！！